

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：23503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2021

課題番号：15K01525

研究課題名(和文)身体表現・ダンス教育による接続カリキュラム構築

研究課題名(英文)Building a connection curriculum through creative movement and dance education

研究代表者

高野 牧子(TAKANO, MAKIKO)

山梨県立大学・人間福祉学部・教授

研究者番号：30290092

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：「身体表現・ダンス教育による接続カリキュラム構築」を研究目的とし、レッジョ・エミリア市での芸術教育および保幼小連携の状況を明らかにした。市では、レッジョ・ナラ(芸術祭)を開催し、幼児から高齢者まで共に創り・観る体験を共有する他、市の教育機関、SEIを市内複数箇所に設置し、マラグッツィセンターと連携し、子どもが必要とする教育支援を複層的に利用できるシステムを構築している。ドイツの「森のようちえん」2園の参与観察調査、インタビュー調査より、幼児期は環境から感性を磨き、自由に身体で表し、友達と協力して遊びこむ活動により、自己有能感を高め、小学校でも十分に自分の力を発揮し、学習意欲へ繋がると指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

接続カリキュラムは、幼稚園と学校という「線」としての繋がりだけではなく、保護者や地域社会全体という「面」で子どもたちを支える地域全体でのネットワーク形成が必要である。レッジョ・エミリア市の街全体で生涯にわたり、その人らしく表現活動が行えるような体制を明らかにできたことは本研究の成果である。また、身体表現のカリキュラムとして多様な「もの」を活用して創造的な身体表現活動の具体的な有用性を示した。幼小連携に留まらず、生涯教育を見通し、心が動くような環境を整え、未満児から共に体で表現する活動を楽しみ、共感しあう経験を繰り返すことが重要であり、その人らしく生き続ける社会の実現に向け、社会的意義が大きい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the research is "building a connection curriculum through creative movement and dance education". The situation of art education and childcare cooperation in Reggio Emilia was clarified. In the city, Reggio Nara (art festival) is held to share the experience of creating and watching together from infants to the elderly. SEI can be set up in multiple locations in the city, and in cooperation with the Maraguzzi Center, the educational support needed by children can be used in multiple layers. On the other hand, we conducted a participant observation survey and interview survey of two "Forest kindergarten" in Germany. As a result, what is important in early childhood is to develop sensibilities from the environment, express freely with the body, and play with friends. It is pointed out that such experiences enhance the sense of self-competence, fully demonstrate one's strength even in elementary school, and lead to motivation for learning.

研究分野：舞踊教育学

キーワード：幼小接続 身体表現 レッジョ・エミリア ドイツ 森のようちえん 地域連携 創造的活動体験

1. 研究開始当初の背景

平成 21 年度より新幼稚園教育要領が完全実施され、領域「表現」の内容では「(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。」とし、「動きによる表現」が言葉や演じるより先に記載されている。言葉の発達が未熟な幼児期の特性を活かした内容として、「動きによる表現」の重要性は高い。平成 23 年度から完全実施された小学校新学習指導要領では、中学年以上が「表現運動」と示されているのに対し、小学校低学年では「表現リズム遊び」と提示され、「遊び」という視点を明示することによって、少なくとも名称においては幼児期から低学年期への教育の一貫性を重視していることが認められる。

しかし、実際には、幼稚園では運動会でのリズムダンスが中心であり、幼児ならではの生き生きと表現題材になりきって身体表現遊びを楽しむ活動は、その多様性においても深みにおいても検討の余地が大きい。また、小学校においても、「表現リズム遊び」の指導は、小学校学習指導要領解説において、「題材と動きの例示」が具体的に示されているものの、指導法の模索が続いている。「動きによる表現」は、言語発達の途上にある幼児期において、一人ひとりの内面を外在化する上で非常に有意義な活動であり、自分をどのように表現し、他者とコミュニケーションしていくか、人間の生涯にわたるコミュニケーション能力の基盤となる。従って、今後、「幼小連携」を考えていく上でこのような特性を有する「動きによる表現」は幼児期からのボトムアップの方向性による教育カリキュラムの構築に不可欠であろう。これまでの先行研究では、「動きによる表現」の研究対象を幼児、または小学生と分けてとらえることが多く、「幼小連携」の視点から、発達の連続性を前提として、カリキュラム、指導法、指導教材を総合的に体系化した研究は未だ、行われていないのが研究開始当初の状況であった。

2. 研究の目的

本研究は、「幼小連携」のカリキュラム構築に向け、特に「身体表現」教育に焦点を絞り、幼児教育における「身体表現あそび」から小学校体育における「表現リズム遊び」へと自然に接続させる学習内容のあり方を明らかにすることを目的とする。日本で身体表現は長く体育科の中で取り扱われ、運動を通して体験から「できる」「わかる」を創出し、遊びながら学ぶ幼児期からの自然な接続に有効な科目である。その一方、欧米では芸術教育の中に身体表現が含まれており、特に近年、高く評価されているイタリアのレッジョ・エミリア及びドイツでの芸術教育の実態を踏まえ、幼児期から小学校、中学校、高校、高等専門教育へとつなげていく体系的なダンス指導法を考察することを研究目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、海外での調査研究を基にし、国内で実践検証する PDCA の循環型の研究を行う。つまり、海外で調査研究した教材、指導法、カリキュラム等を基に、国内での指導案を計画し、実施し、形成的評価および VTR 評価を行い、これを多様な対象に繰り返し検証することとする。

(1) 海外の現地調査は以下の 2 か国で実施した。

① イタリア、レッジョ・エミリア市

- ・ローリス・マラグッツィセンターでの研修
- ・ローリス・マラグッツィセンター内ドキュメンテーションセンターにて調査

- ・ドキュメンテーションセンター長へのインタビュー調査
 - ・ボローニャとミラノのレミダの見学
 - ・レッジョ・エミリア市内の延べ7園の幼児学校視察
 - ・語りの祭典「レッジョ・ナラ」視察 2回
- ② ドイツ、アウグスブルグ
- ・森のようちえん 2園 参与観察調査 それぞれ1日間
 - ・森のようちえん 園長、教諭、表現指導者へインタビュー調査

(2)日本での実践的研究

- ①継続的な実践研究とデータ蓄積は以下の子育て支援活動において母子への身体表現活動を実施し、母親による評価を参考にPDCAサイクルにより、実践方法を検証した。
- ・2歳児とその保護者約25組を対象に年10回、5年間
 - ・3歳児とその保護者約30組を対象に年6回、5年間
- ②鳥取県伯耆町において、身体表現における幼小連携の可能性を検討し、同じ「動物になろう」という題材で、幼稚園と小学校で実践し、接続を考慮した内容と指導展開、指導法について検討を重ね、全国大会にて発表した。
- ③森のようちえんにおいて、自然の中での異年齢児を対象とした身体表現活動の実践を継続的に実施した。
- ・3～5歳児の異年齢児集団に対しての身体表現指導

4. 研究成果

「身体表現・ダンス教育による接続カリキュラム構築」を研究目的とし、レッジョ・エミリア市での芸術教育および保幼小連携の状況を明らかにした。市では、レッジョ・ナラ（語りの祭典）を開催し、幼児から高齢者まで共に創り・観る体験を共有する他、市の教育機関、SEIを市内複数箇所に設置し、マラグッツィセンターと連携し、子どもが必要とする教育支援を複層的に利用できるシステムを構築している。

また、ドイツの「森のようちえん」2園の参与観察調査、インタビュー調査より、幼児期は環境から感性を磨き、自由に身体で表し、友達と協力して遊びこむ活動により、自己有能感を高め、小学校でも十分に自分の力を発揮し、学習意欲へ繋がると指摘した。特にシュタイナー教育により日常的に言葉・音楽・動きが融合した表現活動が活発に行われ、表現を通して互いを尊重する態度を養っていた。

接続カリキュラムは、幼稚園と学校という「線」としての繋がりだけではなく、保護者や地域社会全体という「面」で子どもたちを支える地域全体でのネットワーク形成が必要である。レッジョ・エミリア市の街全体で生涯にわたり、その人らしく表現活動が行えるような体制を明らかにできたことは本研究の成果である。

また、なだらかな接続に向け、身体表現のカリキュラムとして多様な「もの」を活用して創造的な身体表現活動の具体的な有用性を示すことができた。「もの」を活用した環境構成から引き出す表現活動は、校種のギャップを越え、身体表現を引き出すことができる活動である。幼小の連携だけに留まらず、生涯教育を見通し、心が動くような環境を整え、未満児から共にからだて表現する活動を楽しみ、共感しあう経験を繰り返すことが重要であり、日本の身体表現教育において、今後の基本的な方向性を示すことができたと考える。

研究期間内の成果として、次の4点があげられる。

(1)イタリア、レッジョ・エミリアにおける調査研究の成果

レッジョ・エミリアにおける身体表現、ダンス教育について具体的な実践の観察調査により、街全体で芸術教育を推進し、就学前から繰り返し、創造的な身体表現活動を繰り返すと共に、発表・鑑賞の機会を設け、幼小中への理解を深める。音楽、造形、身体表現を分けず、環境を通じた総合的な表現活動を推進している。また、複層的に子どもへの教育支援機関を配置し、子どもがニーズに応じて支援を利用できるように街全体で支援体制が構築されている。

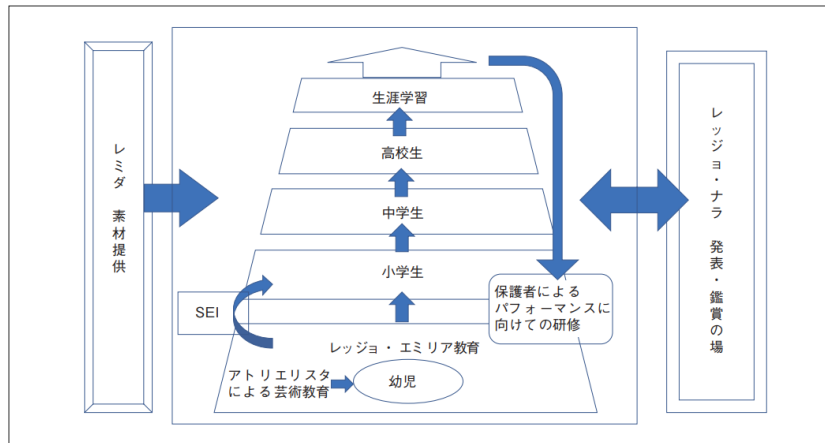


図1 レッジョ・エミリア市における幼児期から生涯にわたる芸術教育

図1に示したように、レッジョ・エミリア市では「レミダ (REMIDA)」という市内の企業等から廃棄物等を集積し、芸術創作の素材として提供するシステムがある。また、「レッジョ・エミリア」は市民全体に発表と鑑賞の場を提供している。レッジョ・エミリア教育では、アトリエリスタによる芸術教育が幼児期より行われ、SEIが小学生を支援して連携を図り、さらに、興味関心のある中学生、高校生へとより専門性の高い芸術教育へと繋いでいた。さらに、幼児学校の保護者によるパフォーマンスは専門の指導者による研修が行われており、生涯を通じた芸術教育が行われている（濱口、高野：2017）。つまり、幼児期からレッジョ・エミリア教育を土台として、一人一人の表現を育む中、「レッジョ・エミリア」という街全体で開催する「語りの祭典」において、年間の表現活動の発表の機会を設けると共に、プロの表現に親子で一緒に触れ、芸術と関わり、追体験として身体を通して感性と創造性を育む場となっている。

幼児期から始まった芸術教育は、小・中・高校、そして生涯学習へと繋がり、生涯を見通した芸術教育が行われ、表現者、鑑賞者を育てている。また、「子どもの頃から市民である」という意識を持たせ、街全体が表現の場となり、プロも保護者も、障害の有無や人種を超えて、多様な表現を認め合うことにより、感性を高め、表現力、観賞力を育てていると考えられる。

(2)ドイツ、アウグスブルグにおける調査結果の成果

ドイツのアウグスブルグの「森のようちえん」2か所で参与観察を行い、園長らにもインタビュー調査を実施し、幼小接続に必要な子どもたちの育ちを考察した。ドイツの幼児教育における教育要領では、創造的な身体表現を行うことが明示され、観察した1園ではオイリュトミーが日常生活の中で頻繁に行われ、身体で表現することが日常化し、一人一人が自分の表現を行い、

尊重し合える土壌が創生されていた。また、森のようちえんの基地として放課後児童クラブの施設を利用しており、日常から共同で同じ空間で過ごす体験は、子ども同士のつながりを生むうえでも有効であると指摘できる。

視察した2か所の森の幼稚園の子どもたちは、小学校に入学後も好奇心旺盛で集中力があり、主体的で優秀であるとの評価を受けているということであった。視察した2園とも活動中、自分で考え、探究し、発見する遊びの中での学びが、それぞれの子ども の活動の中にみられた。保育者は熟知した自然環境の中で、安全に配慮しつつ、子どもの好奇心や探究心を高めるような環境へ誘導し、子どもに指示することなく、言葉かけも極力しないで見守り、困って子どもが訴えてきた時には援助するという教育のスタンスは一致していた。

子どもたちの主体的な学びを補償するために、十分に自由な時間を取り、環境の中から、子どもたち自身が遊びを考え出し、友達と工夫する中で、学びが得られていた。接続教育の中で重要なことは、教科の基礎を教えこもうとするのではなく、子どもたちが学びへ向かう主体的な姿勢や探求心を 育むことであり、ドイツでの「森の幼稚園」は示唆に富むものであると指摘できる。

(3)「もの」を通した身体表現活動

創造的身体表現活動は、苦手意識のある子どもは恥ずかしさを伴い、自分の思い通りに表現することが困難なケースも頻繁に見受けられ、その打開策として、海外調査から環境構成の重要性を指摘した。そこで、「もの」(小道具)によってどのような身体表現を引き出せるのかを明らかにし、環境構成として提供する際に期待できる効果を検討した。対象は2歳児とその保護者であり、月1回の創造的身体表現の連続講座を実践した。「もの」の素材は、1)新聞紙 2)緩衝材によるエアマット(プチプチ緩衝材) 3)ムーブメント・スカーフ 4)光と映像 5)伸縮布 6)フープの6種類とした。

その結果、新聞紙は上肢の動きが多く、エアマットは下肢を中心とした動きが多い。光と映像は、身体部位を意識させ、伸縮布は全身のバランス感覚を養う動きが多い。ムーブメント・スカーフとフープは見立ててなりきる模倣的な動きが引き出された。

「もの」によって身体表現の引き出され方も違う。多様な表現を引き出すために、意図して素材を組み合わせ、年間を通して多様な動きが経験できるよう計画し、目的に応じて、援助の工夫が必要であると結論づけた。さらに、こうした取り組みを通じてSDGs教育にも繋げていくことができる大きな可能性を見出した。

(4)面で繋ぐ幼小接続

これまで、幼保小連携は小学校と幼稚園、あるいは小学校と保育所というように一対一の線で繋ぐ関係性であった。しかし、二者間の情報共有だけではなく、放課後児童クラブや地域の教育機関、保護者、クラブ等とも連携し、面で子どもをサポートするネットワークの構築が重要であると指摘できる。子どもの多様な側面からサポートしていく体制づくりを行う中で、継続的な身体表現遊びを継続的に繰り返し、自己有能感を高めていくことが大切である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 高野牧子・濱口由美	4. 巻 15
2. 論文標題 レッジョ・エミリア市における芸術教育 - 「レッジョ・ナラ」を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山梨県立大学人間福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高野牧子	4. 巻 16
2. 論文標題 ドイツ 「森の幼稚園」における保育内容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山梨県立大学人間福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 10-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高野牧子・濱口由美	4. 巻 第15巻
2. 論文標題 レッジョ・エミリア市の芸術教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山梨県立大学人間福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 濱口由美・高野牧子	4. 巻 第51号
2. 論文標題 市民表現教育プロジェクトとしてのReggionarra	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高野牧子	4. 巻 第61巻8・9号
2. 論文標題 親子で身体表現あそび	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女子体育	6. 最初と最後の頁 110-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高野牧子	4. 巻 第61巻6・7号
2. 論文標題 すべての人と踊る ベストプレイス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女子体育	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高野牧子	4. 巻 第61巻12・1号
2. 論文標題 境界を超えるための合理的配慮	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女子体育	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高野牧子	4. 巻 34
2. 論文標題 幼児と母親への「もの」を使った身体表現の実践的研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公益社団法人日本女子体育連盟学術研究	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 濱口由美・高野牧子	4. 巻 11
2. 論文標題 市民参画型パフォーマンス評価への提案	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福井大学大学院 教師教育研究	6. 最初と最後の頁 25-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱口由美・高野牧子	4. 巻 第51号
2. 論文標題 市民表現教育プロジェクトとしての Reggionarra	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 281-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鳥取県女子体育連盟 (指導助言 高野牧子)	4. 巻 1
2. 論文標題 保幼小連携 パワー全開!とびだせ!つながれ!	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第51回全国女子体育研究大会鳥取大会紀要	6. 最初と最後の頁 17-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田愛、松原亜紀子、油谷哲志 (指導助言 高野牧子)	4. 巻 60
2. 論文標題 保幼小連携 パワー全開!とびだせ!つながれ!	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女子体育	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高野 牧子	4. 巻 12
2. 論文標題 レッジョ・エミリアの幼児教育における身体表現性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 山梨県立大学人間福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 82 - 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高野牧子	4. 巻 1
2. 論文標題 レッジョ・エミリアの幼児教育における身体表現性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本保育学会第69回大会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 273-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 高野牧子
2. 発表標題 「命の教育」 - ドイツでの「森のようちえん」の事例をもとに - 」
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高野 牧子
2. 発表標題 Implementing creative movement activities at a facility for children with severe motor and intellectual disabilities
3. 学会等名 2019 IAPESGW Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高野 牧子
2. 発表標題 表現者を育む街の取り組み - 「レッジョ・ナラ」の視察を中心に
3. 学会等名 第72回日本保育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高野牧子
2. 発表標題 表現者を育む街の取り組みーレッジョ・ナラの視察を中心にー
3. 学会等名 第72回日本保育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高野牧子
2. 発表標題 Implementing creative movement activities at a facility for children with severe motor and intellectual disabilities
3. 学会等名 IAPESGW (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 MAKIKO TAKANO
2. 発表標題 A practical study of creative movement for children and their mothers
3. 学会等名 18th IAPESGW World Congress 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 花田愛、松原亜紀子、油谷哲志、高野牧子（指導助言）
2. 発表標題 保幼小連携 パワー全開！とびだせ！つながれ！
3. 学会等名 第51回全国女子体育研究大会 鳥取大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高野牧子
2. 発表標題 レッジョ・エミリアの幼児教育における身体表現性
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 濱口由美、高野牧子
2. 発表標題 多様な表現の境界から創造する「レッジョ・ナラ」の研究
3. 学会等名 美術教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高野 牧子
2. 発表標題 レッジョ・エミリアの幼児教育における身体表現性
3. 学会等名 第69回日本保育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 高野牧子（第3章分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244(担当箇所37-54)
3. 書名 保育内容「表現」	

1. 著者名 高野牧子（第4章分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 杏林書院	5. 総ページ数 161(担当箇所33-42)
3. 書名 子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」	

1. 著者名 濱口由美、高野牧子、檜原	4. 発行年 2017年
2. 出版社 プリントバック	5. 総ページ数 55
3. 書名 レジヨ・ナラのキセキ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------